



2026年6月期決算説明会

2026年8月19日

株式会社キャンバス
(東証グロース 4575)

キャンバスは、自社創出・複数の臨床開発パイプラインで
ブロックバスター* を狙える新規抗がん剤を研究開発している**創薬企業**です

* 年間の売上高が10億ドル（約1500億円）を超える画期的新薬

- 会社名 株式会社キャンバス
英文名： CanBas Co., Ltd.
証券コード： 4575
- 代表者 河邊 拓己 （代表取締役社長 M.D., Ph.D.）
- 本社 静岡県沼津市大手町2-2-1
- 設立 2000年1月18日
- 事業内容 抗がん剤の研究開発
- 従業員 19名
うち 研究開発部門 14名（派遣等による専従者1名含む）
管理部門 5名

有望な最先行化合物CBP501

- 作用機序 **免疫コールド→ホット**
- 化合物や会社の特徴に合った初期開発対象 **膵臓がん3次治療**
 - ✓ 承認された既存治療なし・免疫チェックポイント阻害抗体が効きにくい
- ✓ 3剤併用臨床第2相試験で得られている **有望な臨床データ**
- 欧州臨床第3相試験申請の進捗
 - ✓ オーフアンドラッグ指定、科学相談などを通じて欧州規制当局との相互理解が進行

後続パイプラインと、今後も継続的に新薬候補を創出する体制

- CBT005（前臨床試験準備中） CBS9106（臨床第1相終了） CBP-A08など
- **がん免疫**に着目した深い知見の蓄積
 - ✓ 基礎研究と臨床開発との少人数・緊密な連携サイクル

キャンバスの強み がん免疫に着目したパイプライン戦略

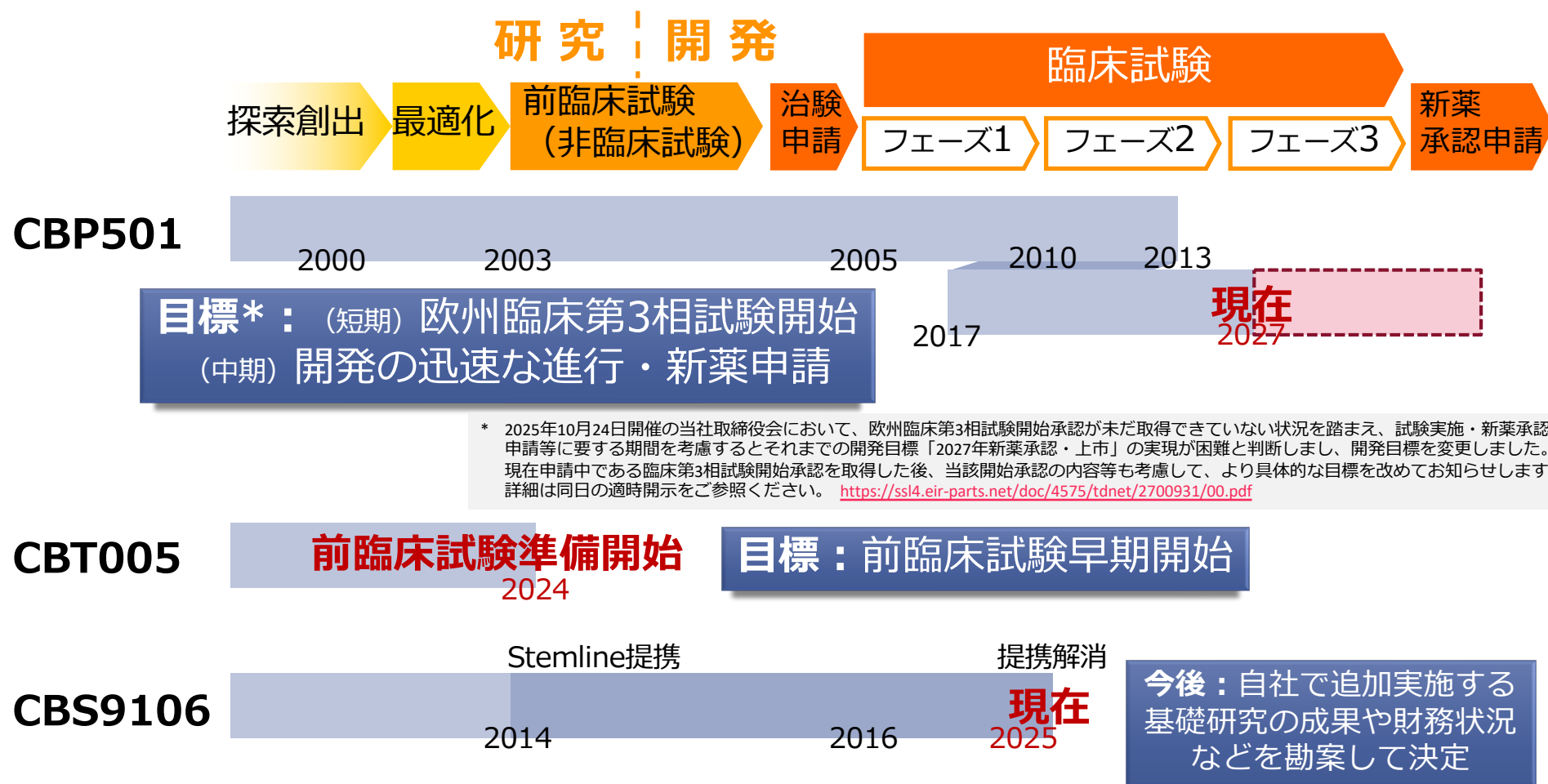
中長期の企業価値の源泉として重視

	探索・創出	最適化	前臨床試験	臨床試験	提携・導出 共同研究等
CBP501 創薬パイプライン型展開	第2相試験で主要評価項目達成 米国第2b相試験開始承認取得・欧州第3相試験開始申請				
CBT005 免疫スイッチ作動薬 がんの「治癒」を目指す 新たな免疫系抗がん剤	前臨床試験準備				
CBS9106 可逆的XPI1阻害剤 現在は新開発方針検討中	前臨床試験終了し導出			第1相試験完了	2025年6月 全権利返還
CBP-A08 CBP501の系譜に属する ペプチド型免疫系抗がん剤	最適化終了				
IDO/TDO二重阻害剤 ほか※					静岡県立大学 ほか

※ 上記のほか、がん免疫領域で広く基礎研究を展開しています。

※ IDO/TDO二重阻害剤は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）新規治療薬としての研究も継続

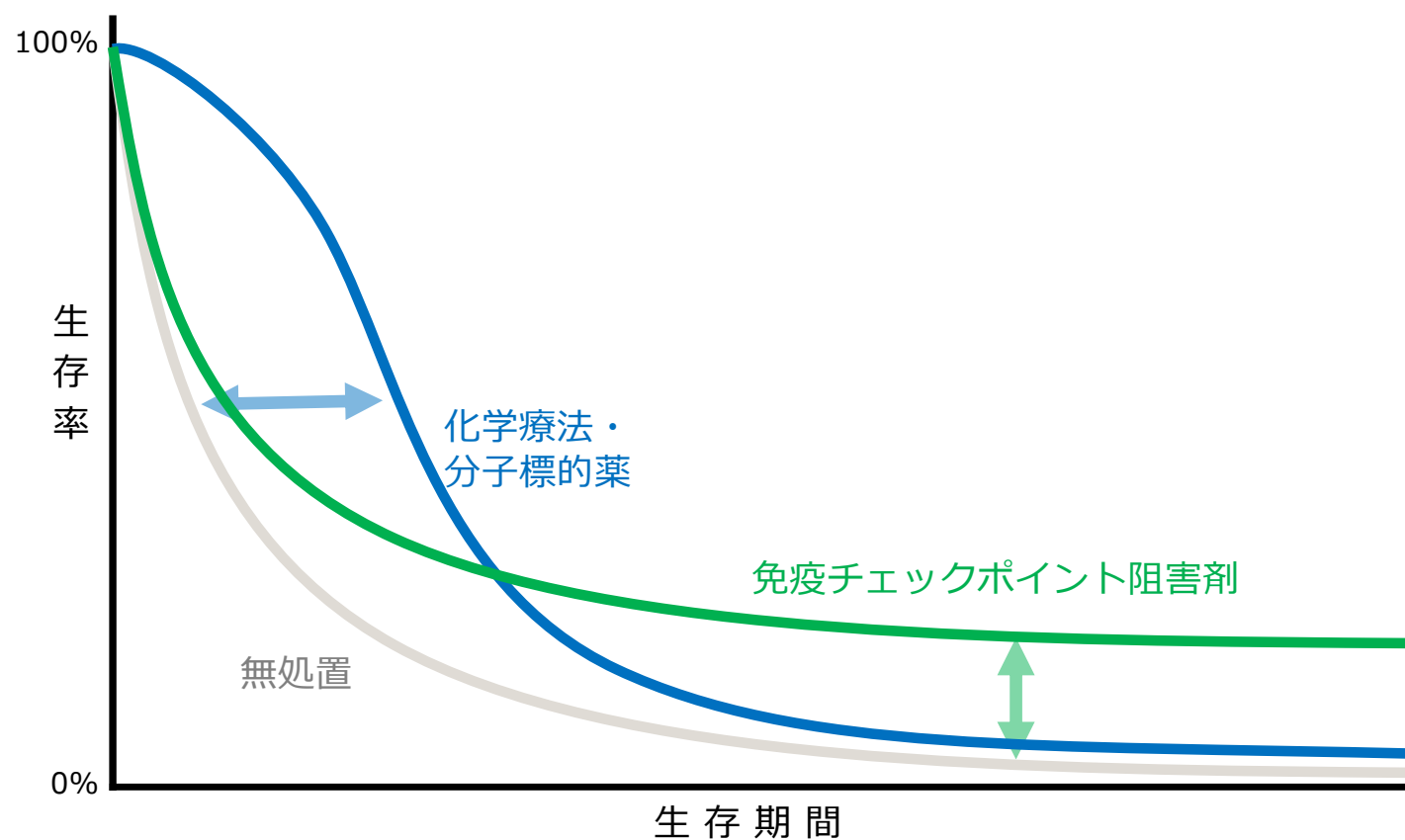
各パイプラインの歩み・現状・目標



開発パイプラインの状況

免疫着火剂 CBP501

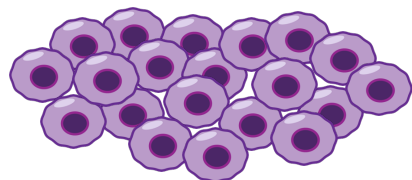
免疫系抗がん剤は一部の患者様に劇的に効く



免疫系抗がん剤の効きにくい「免疫コールド」ながん

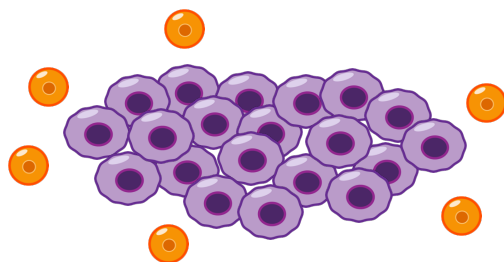
攻撃するための
T細胞がない

免疫砂漠



T細胞ががん組織に
入り込めていない

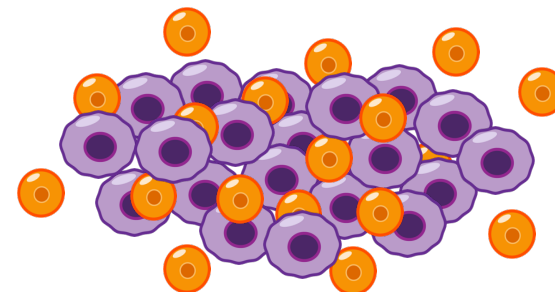
免疫排除



免疫コールドながんを
免疫ホットながんに
変えることが必要

T細胞が十分に
がんを攻撃できる

免疫ホット

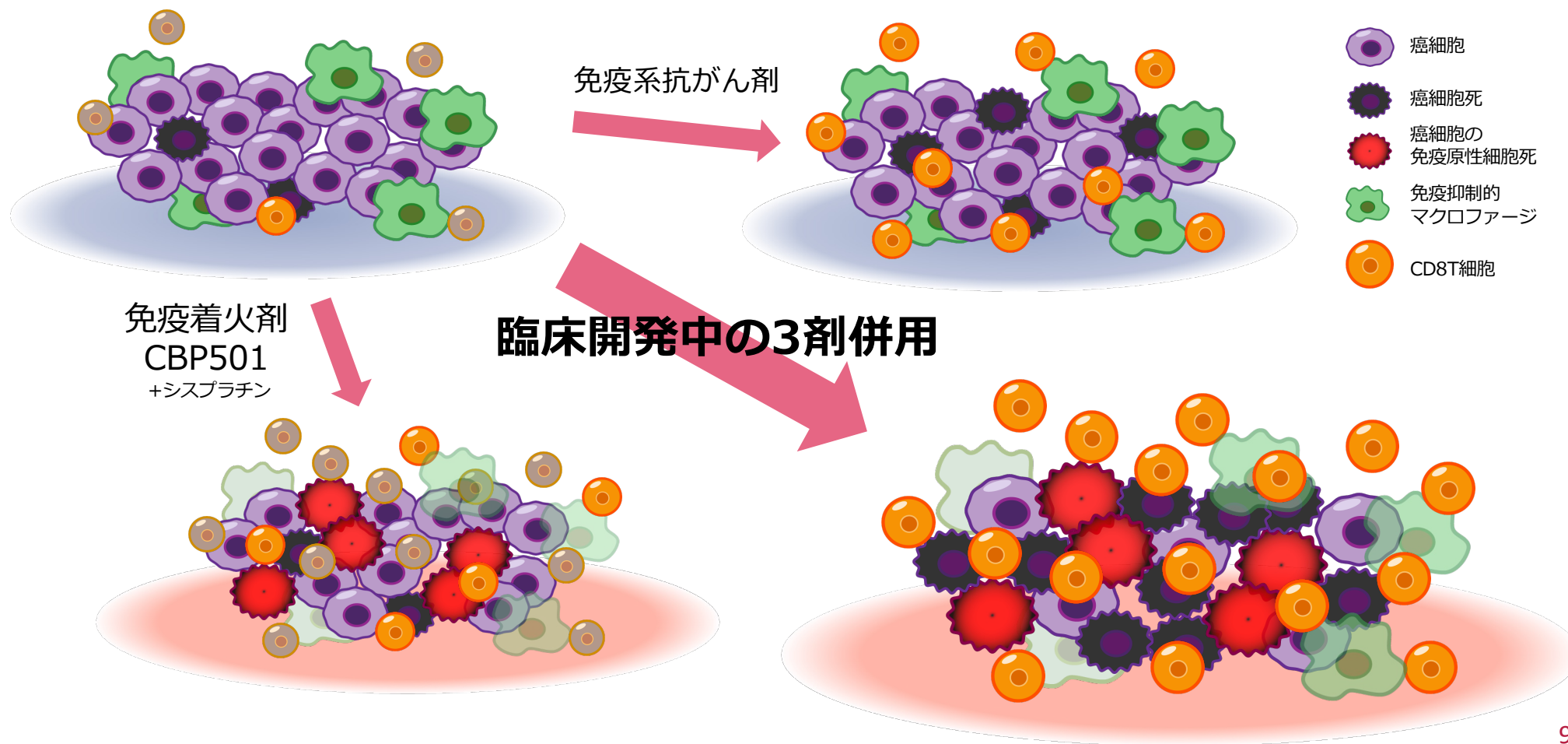


癌細胞



CD8T細胞

CBP501の3剤併用で免疫系抗がん剤を効きやすくする



CBP501 臨床第2相試験の有望な結果

ポスター発表されたCBP501臨床第2相試験結果

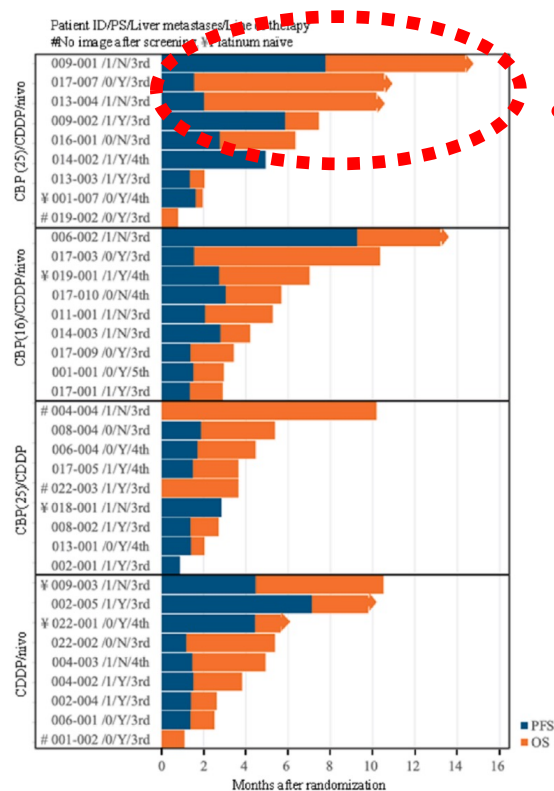
- 主要評価項目 3ヶ月無増悪生存率
 - ✓ 第1群（3剤併用・CBP501 25mg）第2群（3剤併用・CBP501 16mg）で達成
 - ✓ 良好な結果を受け、安全性モニタリング委員会はステージ2に進まないことを推奨
- 副次的評価項目（無増悪生存・客観的奏効率・病勢コントロール率・奏効期間・全生存・安全性）
 - ✓ これらに関する解説は[当社ブログ記事](#)（2023年10月24日）をご参照ください
- 結論

CBP501・シスプラチン・ニボルマブの併用療法は、転移性膵臓腺がんに対する3次治療として、**忍容性のある安全性**で、3ヶ月無増悪生存率、無増悪生存期間および全生存期間において、**持続的な奏効と臨床的に意義のある改善**をもたらした。この化学免疫併用療法は、さらなる検討を進めるべきである

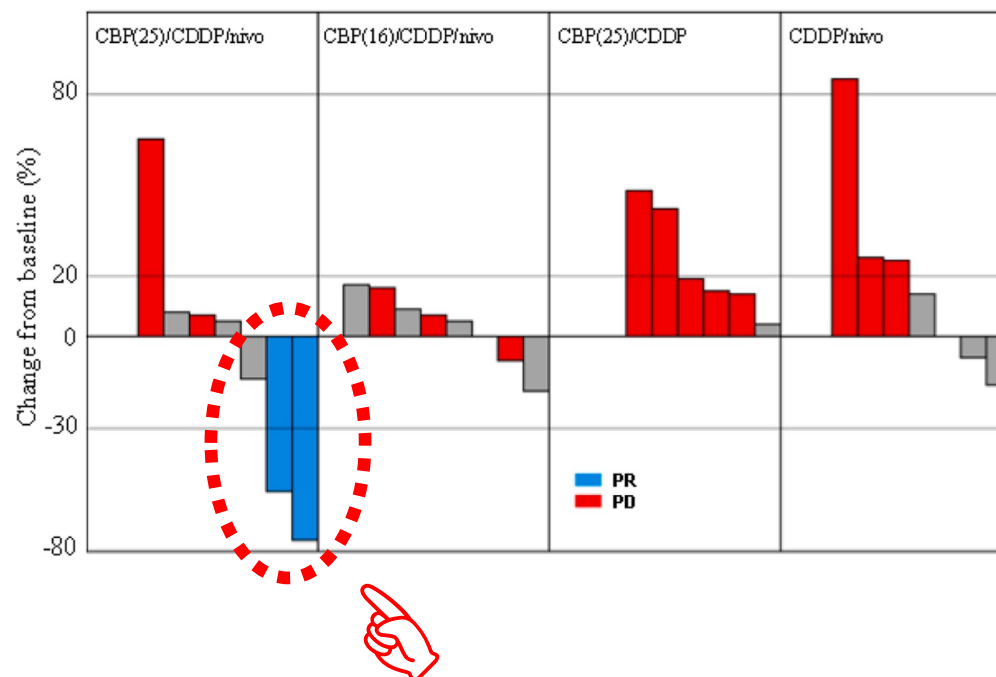
CBP501臨床第2相試験データ(1)

腫瘍増大のない生存期間(PFS)の伸長、生存期間(OS)の伸長、腫瘍サイズの縮小

■ PFSとOSを示すスイマープロット図

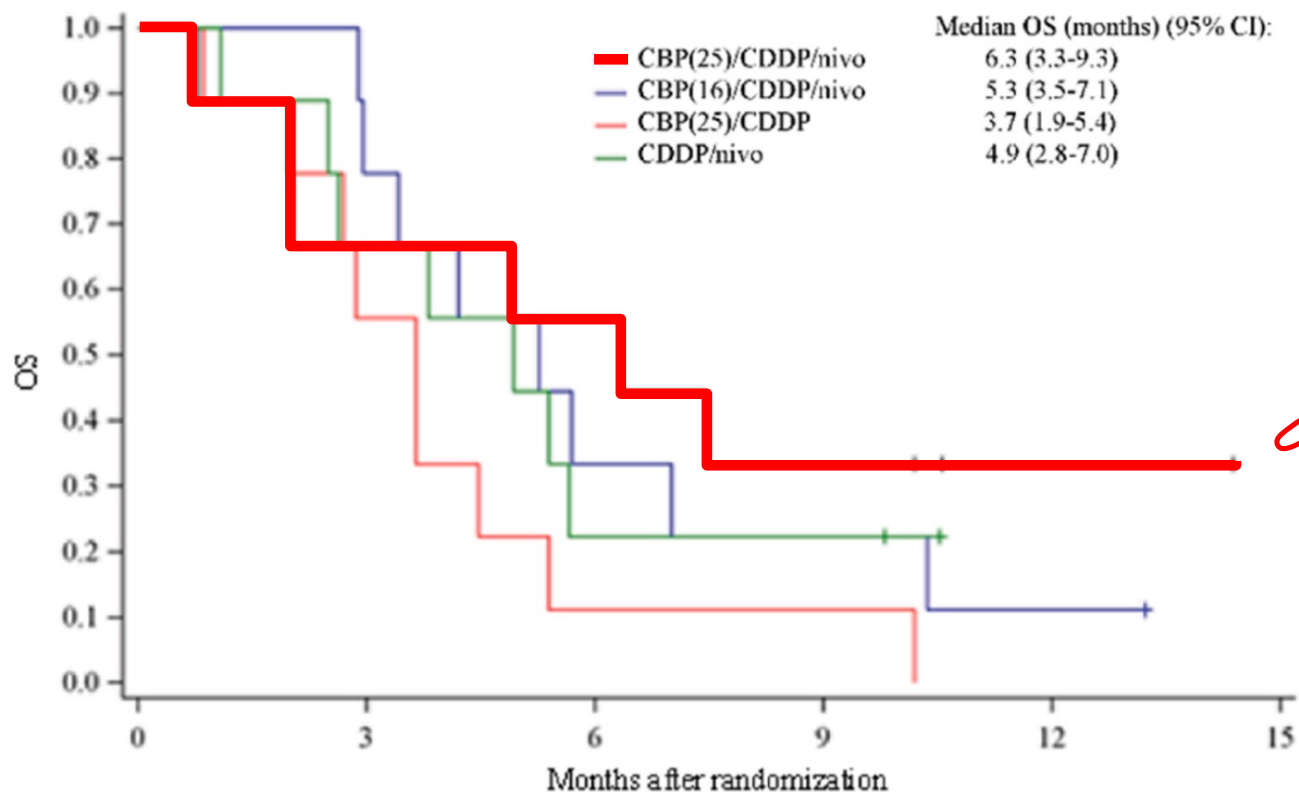


■ 腫瘍の増大/縮小を示すウォーターフォール図



CBP501臨床第2相試験データ(2)

免疫チェックポイント抗体+ α ならではの特徴を示した生存曲線



足もとのトピック

CBP501

欧州臨床第3相試験申請・準備

欧州臨床第3相試験開始申請と準備の状況

➤ ふたつの不確実性の現状

✓ **開始承認獲得の不確実性**：製造関連の対応進捗で顕在化のおそれは着実に低下

- 開始承認獲得の状況悪化については **現在も引き続きその兆候なし**

✓ **獲得時期の不確実性**：当社でコントロール不能な不確実性が現在も存在

- 薬剤製造の規制対応に対する当局による確認など

✓ 開始承認受領後に試験を円滑・迅速に開始するための準備も継続、進展続く

- 臨床試験実施施設との連携、欧州規制当局との相互理解の進行など

➤ 臨床第3相試験費用見通し

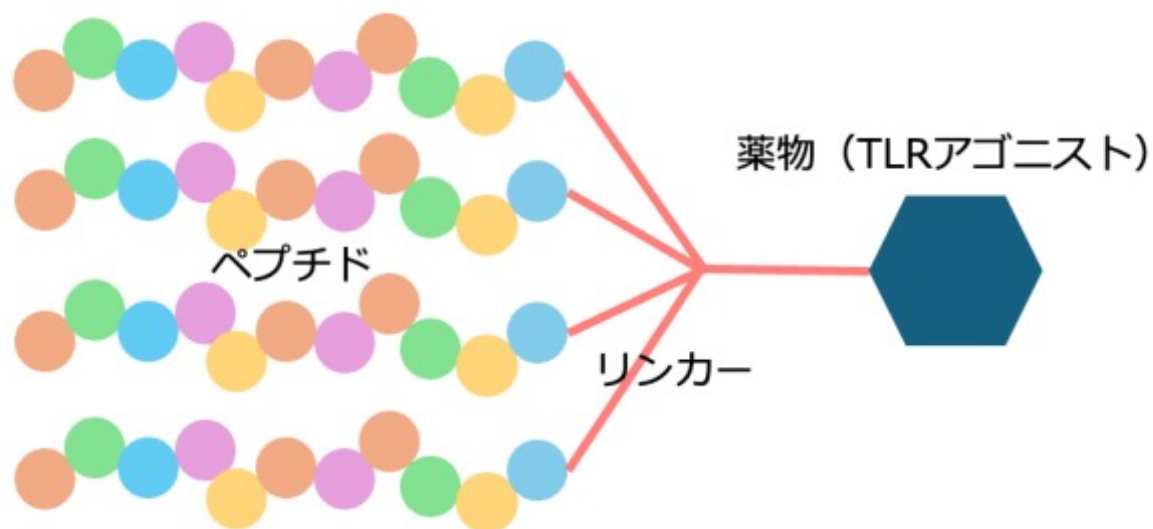
✓ 45-50億円の見通しに現時点で変更なし

- 一部は申請準備の中で先行支出済み

免疫スイッチ作動薬 CBT005

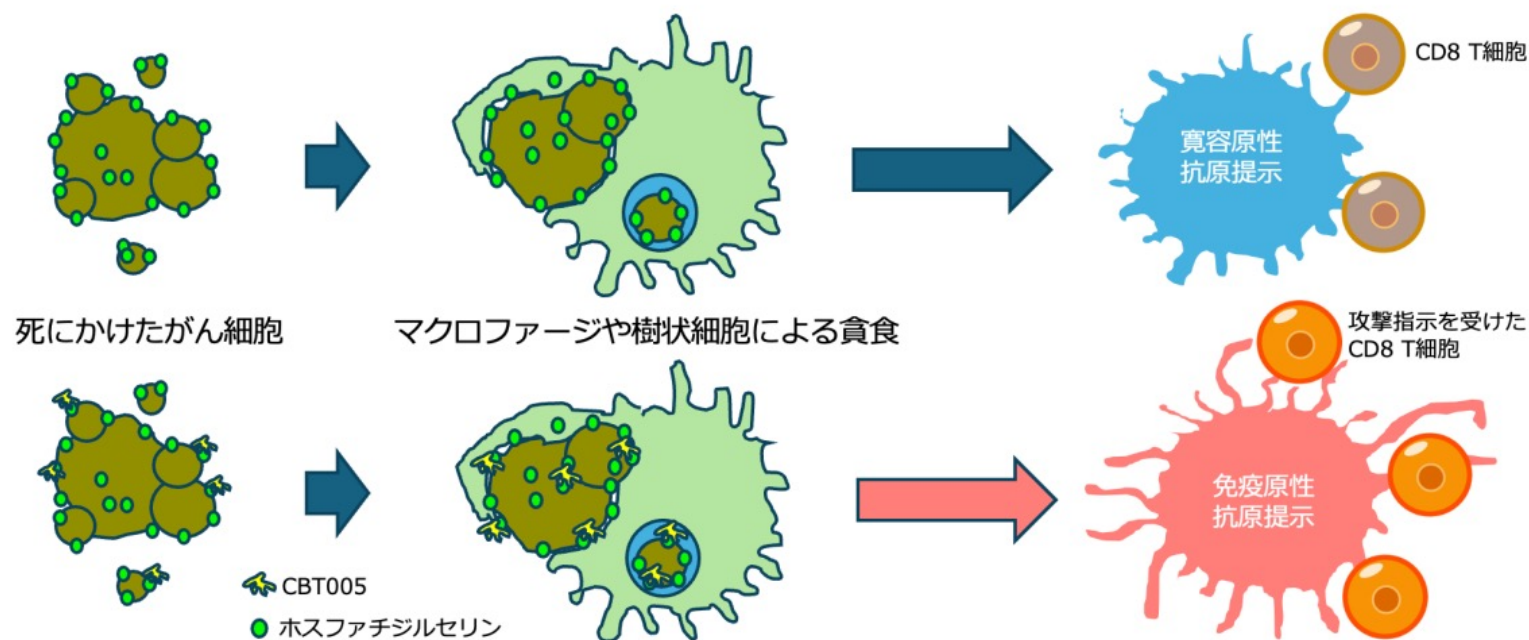
■ ホスファチジルセリンに結合するペプチド4つと
薬物をリンカーで結合させた**PDC** (Peptide-Drug Conjugate)

- 狙い：死にかけたがん細胞の新生抗原を利用して免疫スイッチを切替える
- 模式図



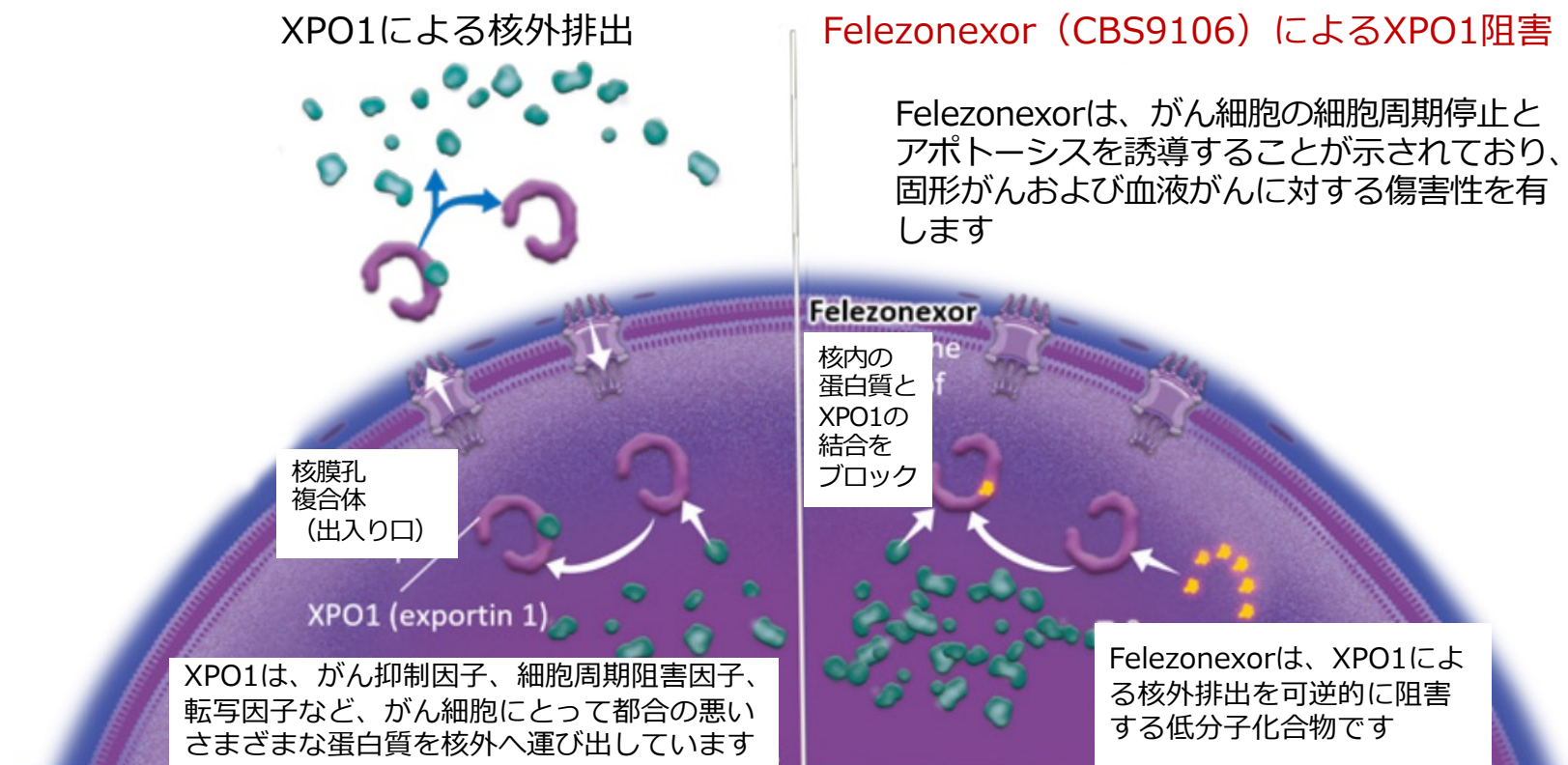
免疫スイッチ (ImmunoSwitch)

- 抗原提示細胞のTLRを活性化し、T細胞への指示を「**攻撃する**」に切替える
《想定している作用機序》



可逆的XPO1阻害剤 CBS9106

XPO1阻害による抗がん活性のしくみ



※ESMO2020(European Society for Medical Oncology、欧州臨床腫瘍学会、2020年大会) ポスター発表

CBS9106の優位性

■ 臨床第1相試験を有望なデータとともに終了

■ 「安全性」「有効性」「使いやすさ」でXPO1阻害剤の**ベスト・イン・クラス**へ

➤ 上市済みのXPO1阻害剤：XPOVIO(Selinexor) 米国Karyopharm社

適応：びまん性大細胞B細胞性リンパ腫・多発性骨髄腫

✓ XPOVIOは副作用が多く、適応も血液癌の一部に限られている

直近の臨床試験（STORM study、多発性骨髄腫対象）

・・・89%の患者でグレード3以上の重篤な副作用報告、少なくとも2例の死亡報告

➤ CBS9106の優位性

✓ 安全性：最大耐用量の高さ（Stemline社による臨床第1相試験、ESMO2020報告）

・・・背景には、CBS9106のXPO1分解作用* による副作用の小ささ

✓ 有効性：複数の固形がんで薬効の兆候（Stemline社による臨床第1相試験、ESMO2020報告）

✓ 使いやすさ：臨床現場で使いやすい経口剤

* CBS9106は、XPO1による基質輸送を阻害したあと、XPO1を分解することがわかっており、細胞は新たなXPO1を産生して正常な機能を保とうとするため、副作用の小ささが期待できる。

CBS9106 ライセンス契約解消・全権利返還と今後

Stemline社とのライセンス契約経過

- 2014年12月 日中台韓を除く全世界を対象にライセンス導出
- 2018年8月 ライセンス対象地域を上記地域を含む全世界へ拡大
- 2025年6月 ライセンス契約を解消し、開発及び商品化に関するすべての権利が当社に返還

ライセンス契約に基づき受領済みの収益

- 契約一時金・・・2014年12月 10百万円、2018年8月 5百万円 それぞれ受領済
- 技術アドバイザリーフィー・・・2014年12月～2021年6月 累計702百万円 受領済

今後の展開

- 返還手続き終了後、当社は具体的な臨床開発計画を策定するための基礎研究を実施
(基礎研究費予算の範囲で実施するので短期的な業績への影響なし)
- 今後、追加で実施する基礎研究の成果や会社の財務状況などを勘案して、開発方針を検討

その他の研究開発 前臨床試験までの段階のプロジェクト

基礎研究～非臨床試験段階のプロジェクトの状況

基礎研究～前臨床試験準備段階のパイプライン (ピックアップ)

➤ IDO/TDO二重阻害剤

- ✓ 静岡県立大学と共同研究で最適化を進行中。日本・米国で特許成立（2023年6月6日・2024年9月10日公表）
- ✓ ファルマバレーセンターによるアライアンス活動開始（2025年4月2日公表）

➤ CBP-A08

- ✓ 最適化を完了し、財務状況等を勘案し前臨床試験開始を模索

➤ NEXTプロジェクト

- ✓ 新たなコンセプトの免疫系抗がん剤候補化合物の探索創出
- ✓ インテージヘルスケアとAI（人工知能）を利用した創薬共同研究（2024年12月25日公表）

➤ 抗がん剤感受性予測システム

2026年6月期決算・財務の状況

2026年6月期の業績 (1)損益計算書

2026年6月期損益計算書のポイント

- 事業収益計上なし
- CBP501臨床開発（主に臨床第3相試験開始申請と規制対応）を中心に研究開発先行投資
 - ✓ 事業費用 1,358百万円の内訳：基礎研究費*1 226百万円 臨床開発費*2 830百万円 販管費 301百万円
基礎研究費と販管費は前年比微増。臨床開発費の大半はCBP501欧州臨床第3相試験の開始申請と規制対応に関連する費用で、特に製造製剤化に関する規制対応で支出増。
 - ✓ 営業外損益（主に為替差益）50百万円

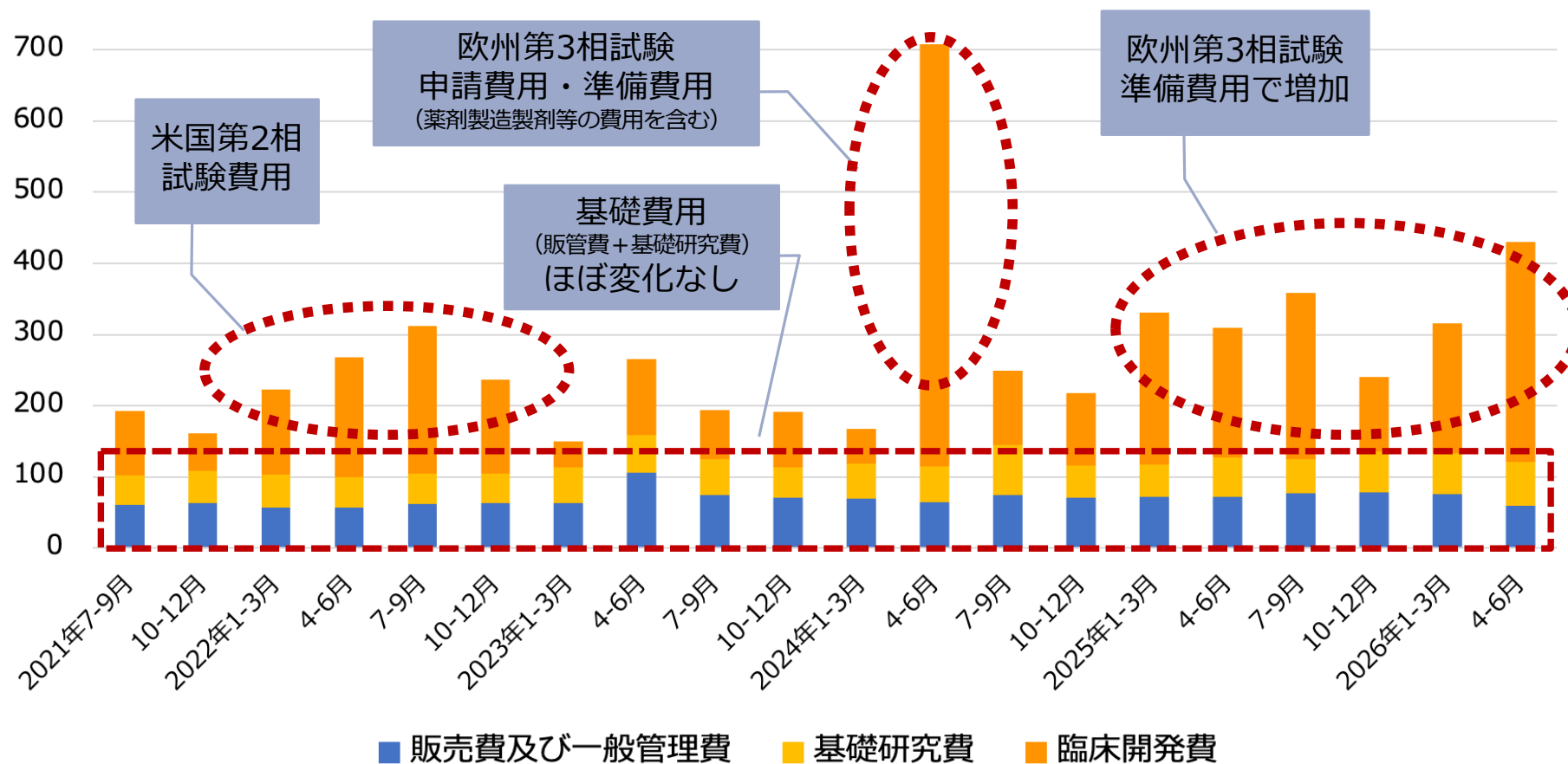
	2026年6月期	前年比	注
事業収益（売上高）	一 百万円		
営業利益	△1,358 百万円	損失増 249 百万円	
経常利益	△1,307 百万円	損失増 151 百万円	
当期純利益	△1,308 百万円	損失増 151 百万円	

*1 共通の人員・設備・消耗品等が多数あるため、基礎研究段階のプロジェクト個別の費用内訳は算出していません。

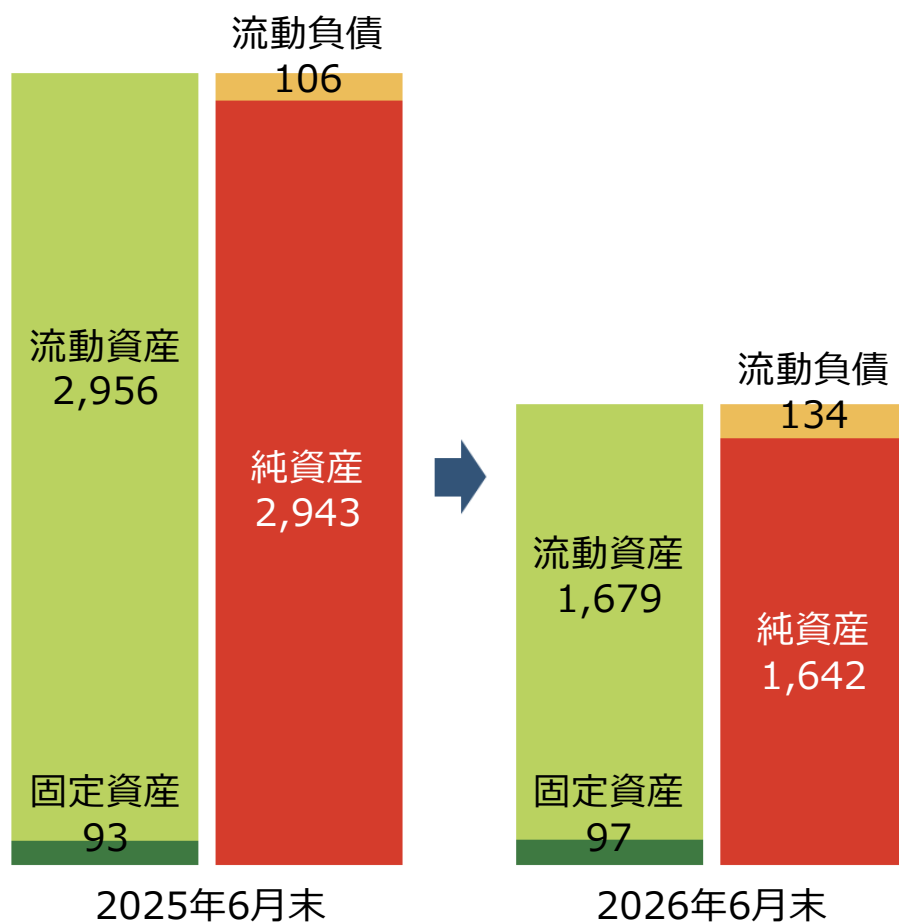
*2 臨床開発費は全額がCBP501関連の費用です。CBS9106・CBT005に関する費用はありません。

事業費用は主に臨床開発費で増減

四半期会計期間の事業費用推移（単位百万円）



2026年6月期の業績 (2)貸借対照表の推移 (単位：百万円)



2025年6月期末からの主な変化

➤ 流動資産

- ✓ 現預金 2,827 → 1,445
- ✓ 前渡金 62 → 184
- 第3四半期末（2026年3月末） 292百万円
- 薬剤製造製剤化等規制対応の進捗により第4四半期に費用計上が進みました

*百万円未満切り捨て表示のため合計などが一部一致しません。

キャンバス企業価値評価の視点

キャンバスの企業価値を評価する視点

CBP501のパイプライン現在価値

➤ 利益実現までの開発期間・成功確率・不確実性

✓ CBP501臨床第3相試験を完遂できるか

- 欧州臨床試験開始承認獲得の期待（獲得時期/それ以外の不確実性）
- 期間見通し、成功確率、開発環境や開発資金の確保

✓ 新薬承認を獲得できるか

- これまでの良好な臨床試験データ

➤ CBP501上市成功後の利益

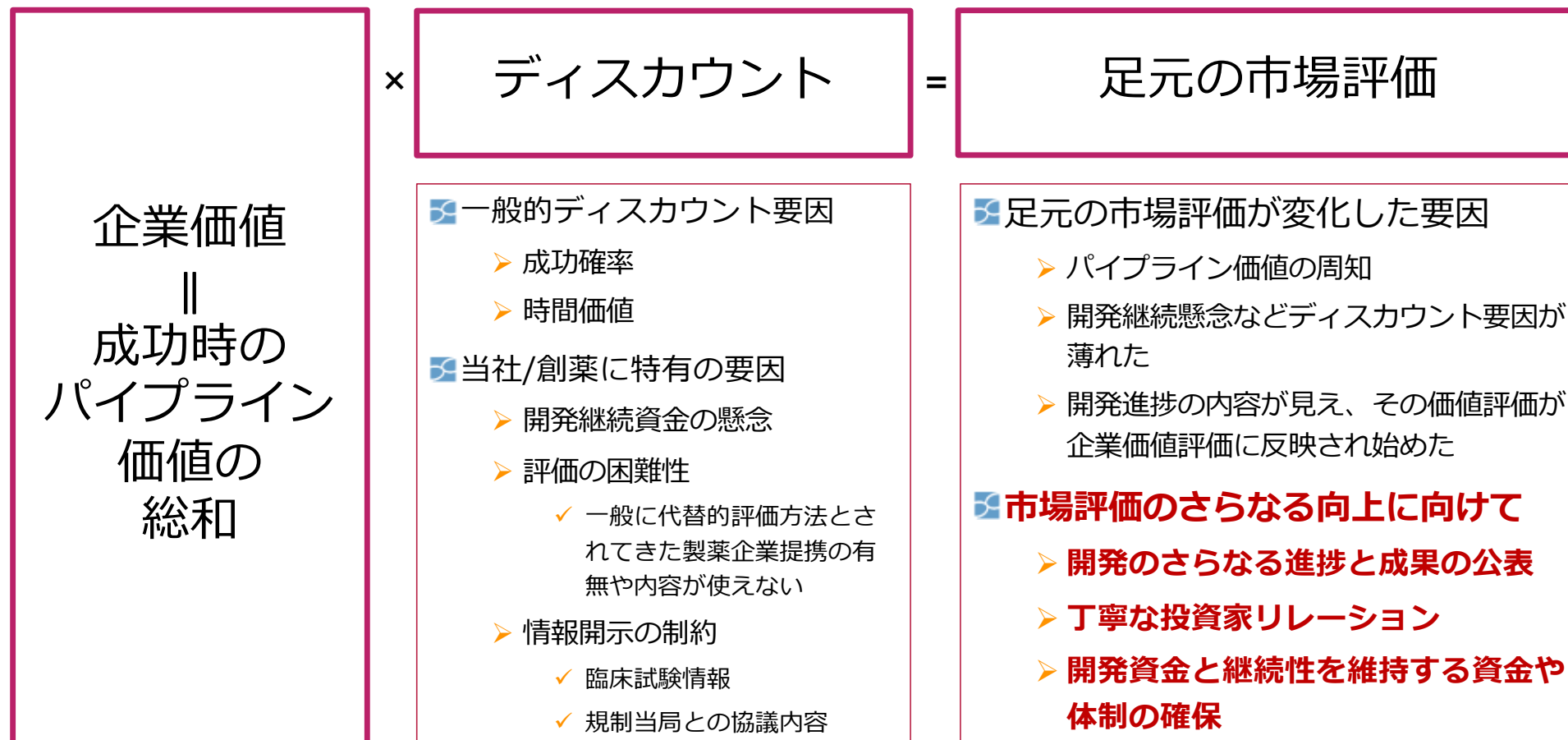
✓ 上市成功時の成功規模

- 欧州ほか主要市場の患者数・薬価・シェア、他のがんへの適応拡大の期待
- オフファン指定による欧州10年・米国7年の独占保護



後続パイプラインと、今後も継続的に新薬候補を創出する体制の価値

企業価値評価向上への施策



今後の資金需要と方針

CBP501が営業キャッシュフローに貢献するまでの資金需要

➤ CBP501開発（臨床第3相試験・新薬申請）費用

- ✓ 臨床第3相試験費用見通し：
現時点で45-50億円（費用総額と支出時期は今後変動する可能性あり）一部は既に支出済み
- ✓ 試験の開始には現有資金で全く問題ないが、完遂までには不足が想定される

➤ 基礎費用

- ✓ 基礎研究費＋販管費：四半期あたり1～1.5億円で今後も大きな変動はない見込み
- ✓ 後続パイプラインの創出・開発は中長期的な企業価値向上のため不可欠

追加資本政策を検討する際のポイント

- ✓ 補助金・助成金、提携等に伴う入金（契約一時金・資本提携第三者割当増資）が望ましい
- ✓ 株式市場からの調達を検討する場合には、
株主価値の毀損や希薄化を可能な限り回避・抑制するタイミングと方法を追求

キャンバスを知る情報源

多様なチャンネルで積極的に情報を発信しています

ウェブサイト <https://www.canbas.co.jp>

- [会社ご紹介資料](#)（不定期更新）
- [マネジメントブログ](#)（不定期更新）

X（旧Twitter）公式アカウント <https://x.com/canbas4575>

- フォロワー7,000人超。主に個人投資家向けの情報発信/Q&Aチャンネルとして定着

アナリストレポート

- フェアリサーチ 2025年9月8日最新版『[Phase3開始に向けて着実な歩みは継続中](#)』
- シェアードリサーチ（随時更新） <https://sharedresearch.jp/ja/4575>

動画配信（TV・インターネット番組等出演）

- 2026年6月期第2四半期（中間期）決算説明会 [動画](#)・[テキスト](#)（2026年2月18日開催）
- アイロゴス主催 櫻井英明WEB株式講演会&企業IRセミナー等
[2025年2月22日](#)（河邊登壇） [2026年4月22日](#)（加登住登壇）



■本資料に関するお問い合わせ先： 株式会社キャンバス 管理部 IR担当 Email IR@canbas.co.jp